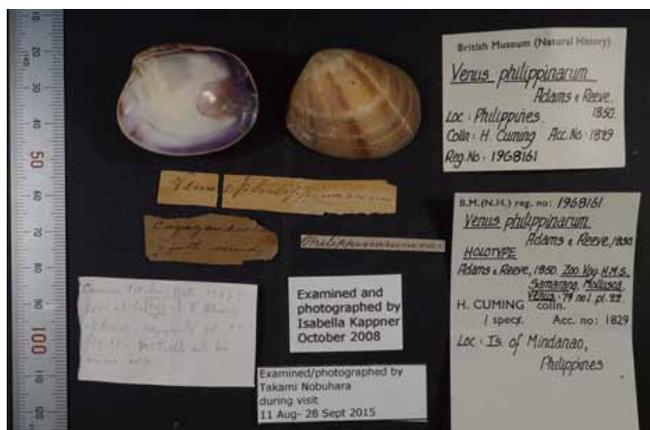


いまだなお世界を知るためのフロンティア ~カミングコレクション

延原尊美

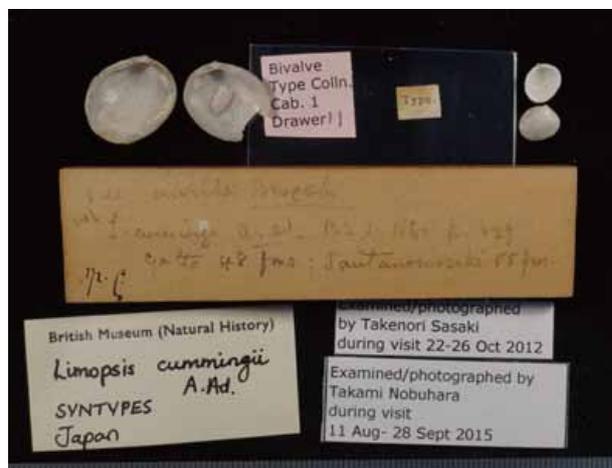


1. アサリのタイプ標本（カミングコレクション）。

ヒュー・カミングは19世紀前半に活躍したイギリスの貝類、植物の収集家である。カミング収集の貝類標本は当時としては世界最大のコレクションで、現在は大英自然史博物館に収蔵されている。カミングコレクションをもとに多くの新種が提唱されたが、日本人になじみの深いアサリもその一つである。また、カミングにちなんでつけられた学名も多い（オリレシラスナガイ *Limopsis cumingii* など）。

数え切れない新種を生み出したカミングコレクションは貝類学を一変させたが、その影響は学問の中にとどまるものではない。ものに名前をつけるという行為が世界を秩序立てていく行為の第一歩と考えると、カミングは私たちの自然の観方をも大きく変えたといえる。また、カミングはダーウインのフジツボの研究にも標本を提供するなど、当時最先端の進化学にも大きな貢献をした。さらに、19世紀のこの巨大なコレクションは整理がいまだ進行中で、現在も世界中から多くの研究者が大英自然史博物館に観察に訪れ、系統や進化についての新知見を生み出し続けている。自然史博物館の本来の使命や奥深さを感じないではいられない。

カミングはイングランド南西部デボン地方に1791年に生まれ、博物学者のモンタギューらの影響のもと博物学と探検の世界に目覚めた。28歳のときに南米チリに移住して実業家として成功するも、30代半ばに引退し採集活動に専念した。学術研究のために特注したス



2. カミングにちなんで命名された *Limopsis cumingii* のタイプ標本。写真中央の台座に貼られたラベルの M.C. はカミング博物館の略称。

クナー船ディスカバラー号で太平洋を横断、各地で貝類を収集した。その冒険家魂は、政府や学術機関からの資金援助もなく、たった二人で航海を行い、自ら命がけで採集活動を行ったことからもうかがえる。カミングコレクションが世界最大の種多様性を誇っているのは、世界で最も生物多様性の高い海域を調査したことだけでなく、桁綱を曳いて深い水深に生息する貝類までも採集対象としていることもある。徹底的な採集活動を繰り返した、カミング自身の蒐集家としてのこだわりがあればこそその偉業であったと思う。

カミングの死後、そのコレクションは大英博物館によって6000ポンドで購入された。その膨大な標本はカミング自身によるオリジナルのラベルとともに保存されている。ラベルにつけられた「M.C.」はカミング自身が自らのコレクションにつけたカミング博物館（Museum of Cuming）の略称とのことである。黄ばんで壊れそうなラベルであるが、19世紀に命がけに採集された当時のオリジナルラベルは、人と科学の営みとしても重要な「標本」と感じる。

なお、カミングについては、ヘレン・スケールズ著（林裕美子訳）『貝と文明』（築地書館、2016年11月）の「第8章 新種の貝を求めて -科学的探検の幕開け」に詳しく述べられている。ご一読をおすすめしたい。